

# 図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30  
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566  
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605  
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>

## ピックアップ

一般



**昨日がなければ明日もない**  
 宮部みゆき／著  
 文芸春秋

離婚後、探偵事務所を開いた杉村。自殺未遂後消息不明の主婦、訳ありの新婦、自己中のシングルマザー。杉村シリーズ第5弾は、「ちょっと困った女たち」と対峙する3編。  
 【中央・葦山】

一般



**弁護士K**  
 久坂部羊／著  
 角川書店

有料老人ホームで入居者の転落死亡事故が発生。ルポライターの美和は、介護士・小柳の関与を疑うが、彼にはアリバイが。現役医師の著者が極限の倫理に迫る医療小説。  
 【中央・葦山】

## 2月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④	5	6	7	8	⑨
10	⑪	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	⑳	26	27	28		

○中央休館日 □葦山休館日  
 ◇両館休館日 ☆おはなし会

## 2月のおはなし会

中央図書館 9日(土) 11：00～  
 葦山図書館 9日(土) 14：00～  
 23日(土) 14：00～  
 くぬぎ会館こども広場  
 14日(木) 11：00～

## 新着本コーナーから

- 一般 それでも空は青い 荻原浩／著【中央】
- 一般 熱帯 森見登美彦／著【中央・葦山】
- 一般 救済 長岡弘樹／著【中央・葦山】
- 一般 草々不一 朝井まかて／著【葦山】
- 一般 最後の読書 津野海太郎／著【中央】
- 一般 がんに生きる なかにし礼／著【葦山】
- 児童 風と行く者―守り人外伝― 上橋菜穂子／作【中央・葦山】

## お知らせ

### 赤ちゃん絵本コーナーをご利用ください

たくさんの中から、子どもの発達段階に合った絵本を探すのは大変ですね。そこで、赤ちゃんがはじめて出会うのにふさわしい絵本や、0歳から2歳くらいまで親子で楽しめる絵本を集めたコーナーがあります。  
 絵本を囲んだ楽しいひと時が、赤ちゃんの心の栄養になるでしょう。

## こどもの本の勉強会(全5回)

第5回 ようこそ。はるなつあきふゆ  
 ～自然がすき！絵ずかん・絵本をたのしもう～

とき／3月17日(日)10：00～11：30  
 ところ／中央図書館2階 視聴覚室  
 対象／こどもの本に興味のある人 30人(先着順)  
 講師／藤岡祐子さん(静岡県子ども読書アドバイザー)  
 内容／身近な自然への親しみを深めてもらうための絵ずかん・絵本を紹介します  
 申込方法／2月12日(火)から中央図書館窓口または電話で申し込み  
 ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566



# 文化財通信

その164

## 別荘地としての伊豆の国

文化財課  
 ☎ 055-948-1428

一 島で駿豆鉄道に乗りかえ、伊豆長岡で下車して、それからバスで十五分くらい降りてから山の方に向って、ゆるやかな坂道をのぼって行く、小さな部落があつて、その部落のほずれに支那風のちよつとこつた山荘があつた。「お母様、思ったよりもいい所ね」と私は息をはずませて言った。(略)：「だいいち空気がいい、清浄な空気です」と叔父さまは、ご自慢なさつた。「本当に」とお母さまは微笑まれて、「おいしいこと。この空気は、おいしい」とおっしゃつた。  
 (太宰治『斜陽』より)

主人公・かず子親子が、長岡で売りに出された子爵の別荘を購入し、東京から引越してくる場面です。太宰治は、小説の舞台を戦後間もない伊豆長岡温泉のほずれにある山荘に設定しました。太宰自身、執筆中長岡でしばしば遊んだと言われます。  
 遡って明治43年(1910)に長岡温泉場が開場すると、避寒避暑や保養を目的として多くの著名人が別荘を建設し、伊豆長岡温泉は一大リゾートへと発展します。明治の終わりには、多門地

区(長岡南小学校の前周辺)に犬養毅や高田早苗らが、大正期に入ると温泉街のほずれなどに宇垣一成や後藤新平らが、それぞれ別荘を構えます。後藤の別荘は、田京の渡辺家を移築したものでした。昭和には、横浜の三溪園で有名な原富三郎も、田京から移築した田舎家と呼ぶ茶室をもつた別荘をつくります。伊豆長岡温泉に建てられたこれらの別荘のほとんどは今はありませんが、宇垣の別荘の門が温泉街を高台から見渡す場所に残り、当時の面影を伝えています。  
 戦前に別荘地があつたのは、長岡地区だけではなく、奈古谷地区と函南町畑毛温泉の間の大仙山麓には、吉野作造が拓いた別荘地が広がっていました。大正9年(1920)、吉野名義で2万坪の土地買収交渉がまとまっ



料亭「食彩あら川」敷地内に残る旧宇垣別荘の門

たのです。吉野は「不健全な別荘生活」とは異なつた「理想的な田園生活」を説き、フランク・ロイド・ライトの弟子で娘婿の土浦亀城設計の別荘を建設。大仙山麓には桜並木の道に洋風建築などの瀟洒な別荘が建てられ、畑毛温泉の新たな名所となりました。当時建てられた別荘としては、国登録有形文化財となっている中川家住宅(旧高田邸)が、今も残ります。  
 戦前は、他にも寺家地区などで別荘地が分譲されました。温泉があり、冬温暖で東京からの便も良い、伊豆の国市の別荘地。「ちよつと昔」の市内を散策してみたいかがでしょうか。



昭和初期の大仙山麓別荘地 右奥に中川家住宅が見える